

総務、産業、建設常任委員会記録

招 集 年 月 日	令和4年3月16日（水）
招 集 の 場 所	議員控室
開 会	午後2時28分
出 席 者	委員長 山岸 三男 副委員長 佐野 善弘 委員 赤坂 芳則 委員 藤田 洋一 委員 櫻井 功紀 委員 前原 吉宏
欠 席 者	
職務のため出席した者の職氏名	議会事務局主事 高橋秀彰
協 議 事 項	・ 調査研究テーマについて
そ の 他	
閉 会	午後3時21分

2号様式 協議の経過

山岸委員長	それでは、ただいまから第3回の総務、産業、建設常任委員会を開会いたします。委員6人全員揃っていますので、委員会は成立しております。 3の調査研究テーマについてということで、先日3月8日に常任委員会の打ち合わせ会という形で、皆さんに研究テーマを2月に頂いていた中から委員長と副委員長で2つの研究テーマということで案として示させていただいておりました。 まず1つは地域おこし協力隊の活用と定住化について。2点目としてふるさと納税による町の活性化について、という2つの研究テーマの案を前回3月8日に示させていただきました。（「やってないよ」「あのとき中止とか延期だよ」の声あり） うん、だから今言ったように打ち合わせということで事前に2つの研究テーマを示させていただきました。今日ここで2つのテーマを皆さんでご意見あるいは協議をしていただいて2つの案のどちらを研究テーマにするかということについて協議をしていただきたいと思います。 黙読する時間も特別必要ないと思うんで、それぞれ皆さん手を挙げてご意見を言っていただきたいと思います。 はい、赤坂委員。
赤坂委員	一応委員長さん、副委員長さんの案ということで、2案があるんですが、地域おこし協力隊の活用……。①と②のどちらを選ぶかという私は①のほうがかと、こう思っていますね。 ②の場合は、ふるさと納税による町の活性化について、これはどういう発想でこういうふうに整理されたのか。 その辺の①と②のお考えを聞かせてもらいたい。
山岸委員長	今、赤坂委員が言うのはふるさと納税による町の活性化についての考え方ですね。 要するに町の活性化ということは、ある意味で経済の活性化が、要するにお金がないとね、いろんな活動、行動、事業を起こすにも、どうしても資金というものが必要になりますのでね。ふるさと納税をできるだけ増やしていただいて、その納税による町の事業の展開につなげていけるんだろうという意味で、ふるさと納税の資金をとにかく増やしていければ町の活性化にもつなげられるんだろうという思いがありました。 そういう思いがあって、皆さんも御存じの大阪の泉佐野市。この間、国と裁判が終わったようなんですけれども、あれだけの百何十億も集めるように納税ですからね。我が町とは比べ物になるようでもないんですけれども。でもこのふるさと納税というのは進め方とかいろんな返礼品のやり方によっては、相当集められる可能性は十二分に秘めているんだろうと思っていますし。現実的に今回予算審査したときにね、ふるさと納税の。そう大きい金額は予算化していないようなんですけれども、ことをなんとかふるさと納税を活性化できればなという意味で、もう少しそれを深めればいいのかという思いがありました。ふるさと納税についてはね。

	はい、赤坂委員。
赤坂委員	ふるさと納税がないと活性化しないというふうになんかこう捉えがちにもなるんでね。こいつは絞った場合の話でしょう。ただ、どうなんだろうな、前回いろんな意見が出た中で、やっぱりメインたるものは定住化促進だと思うんだよね。そのために町有未利用地の利用だとか、町営住宅の対策をなんとかしなきゃいけないと。その辺が2月16日のときの研究テーマを提案したときに出されていたと思うんだけども。 まあ、委員長さんと副委員長さんにお任せをした責任もあるので、①か②で絞り込んでもいいんだけども、どちらかというと私は①のほうかなと。ただ、そこに地域おこし協力隊をうまく組み合わせることができるかが問題なんだけれどもね。一応予定は4人という予算は組んでいるようですけども、そいつをどういうふうに地域おこし協力隊の活用をしようと思って、ここをこういうふうに表示されたのか。（「委員長」の声あり）
山岸委員長	はい、前原委員。
前原委員	私は1番の地域おこし協力隊の活用と定住化について掘り下げたらどうかと。令和4年度に美里町にも新たに4名の協力隊員が入りますよね。彼らが、まだ我々にはどういう活躍をするかわからない。それについて定住化を促進するに当たって、我々はどういう方向で研究していったらいいのかと。それを提案できる形に持っていったらいいのかなと。なので私的には地域おこし協力隊の活用とそれによる定住化、それについて掘り下げたらどうかと。以上です。
山岸委員長	ありがとうございます。 今、赤坂委員と前原委員からは①の地域おこし協力隊の活用と定住化について掘り下げたらどうかというご意見をいただきました。 櫻井委員はどうでしょうか。
櫻井委員	意見的には①なんですけど、ここに1つ付け加えてほしいのは、地域おこし協力隊の活用と移住定住化について。移住も必要だと思うんだ、私は。文面1ついったことによって違うと思うんだ。（「大分違うね」の声あり） ただ、おっきなテーマになっちゃうな。
佐野副委員長	ちょっと補足なんですけれども、定住というと非常に幅というか裾野が広いんですけれども、例えば地域おこし協力隊ということで令和4年度から活用なんですけれども、今回は4人ということなんですけれども、その中でこの方たちが特にこう町にいろいろな提案をしてもらって、この方たちも美里町に残ってもらおう。一応そういうことでやったんですけれども、皆様は全体的な定住、そういうことも地域おこし協力隊のPRの中で効果もあると思うんですけれども、定住というと2つの面が考えられるのかなということ。 まあ、だから、地域おこし協力隊の定住化というと4人がそのまま町に残っていただくと。いろいろこうデータもあるんですよ、全国的に。地域おこし協力隊の方がその地域にこう……。3年とか過ぎれば帰るというかね。そういうふうな全体的なPRによって町全体の定住化と2つのパターンがあると思うんですけれどもね。一応そういうふうなことで書いてみ

	たんですけれどもね。まあどちらに絞っていくかはあれなんですけれども。
藤田委員	協力隊員が4人ですか。それぞれの分野でそれぞれが選択して自由にやらせるというこの間の説明を受けてね。あまり干渉はしないという。例えば産業関係で南郷に行ったり、商工関係だとか、こう分かれてやっていくんだと。その人たちにはとにかく自由にやってもらうと。そういう趣旨で4人こう分かれて庁内連携のもとにやっていくという説明を受けたと私は思っているんですが。 そこに今度は我々が研究テーマでそこに入って行って、一人ひとりやっていったら大変なことだと思うんです。むしろそういう分野で専門的な大学生なりがやっている中に私たちが研究テーマで入って行ってどうなるものかなと、ちょっと今私は感じたんですよ。その辺も考えてのテーマだとは思いますが、専門的なあいつで採用されて、そしてここにアパートを借りてね、何箇所かに分かれて研究してやっていくんだという説明だったもんだから、そこに我々議会が入って一緒に調べていくというのはいかがなものかなと思う部分があるんです。私はそう思います。 1個だけなら、櫻井委員さんが言われるように、そこに移住が加わればその道もあるのかなという感じもしないではないんですけれども、その辺いかがなもんですかね。
櫻井委員	協力隊設置事業のこれを見てもね、おそらく移住定住に関する活動を行ってもらうということなんだよね。研究テーマはそれぞれ別なんだよ。だから、4人の人たちについて私たちが調べるとか調査するということではないと思うんだよ、私は。地域おこし協力隊の活用と移住定住化についてというテーマは私はいいいんじゃないかなと思うんですよ。 実施計画書の61ページ、これ、みんな移住定住に入っているんだ。協力隊設置事業さ。この人たち、4名を私たちが掘り下げるとかということではないと思うんだな。
前原委員	そこに施策で書いてあるということは、まちづくり推進課が作ったわけだね、その施策を。それに対してどう考えているのかとかさ。
佐野副委員長	データを見ると宮城県が結構遅れている。だから、良い事例とかを提案していけばいいのかなと。
前原委員	今年初めてなんでね。
櫻井委員	この間の新聞の切り抜きを持っているんだけど、移住希望者が静岡がV2。1位が静岡県。2位が福島。ナンバーワンが静岡なんだ。その次が山梨、長野、群馬、広島。宮城県が7位に入っているんだ。47都道府県で。これコピーしてやっか、みんなにさ。 休憩して。
山岸委員長	休憩します。
	休憩 午後2時42分 再開 午後2時45分
山岸委員長	再開します。

赤坂委員	この協力隊の活用と、櫻井委員が言ったような移住を含めた定住化についてということは、私もこれについてはいいなと思います。 ただし、先ほど藤田委員が言われたように、地域おこし協力隊をこちらのテーマに沿って固定するとか動かすというのはちょっと無理な話だと思うんですよ。 だから、ここは表に出さなくてもいいんでないかと思うのね。地域おこし協力隊の活用という、なんだかここの研究テーマ、この人たちを活用することをテーマにすることになってしまうから、ここはあまり強制すべきでないような気はするのね。 だから、メインとして絞るのは移住定住促進ということだと思うんで、その辺、もうちょっとここの表現を整理したほうがいいんじゃないかと思うんですが。 「地域おこし協力隊の活用と」、ここの表現をこのまま文章を分析すると、活用というのが1つあって、あとは移住定住化についてというのが2つ入っているわけさ。この活用というのがここの委員会として表現的にあまり好ましくないような気がするんだけどね。 私の意見です。
山岸委員長	わかりました。 確かにこの文章をこのまま読むと、完全に協力隊を活用する、利用しようっていうような、そういう印象を受けたりなども感じられるんで、ここの文言をもう少し別な文言に……。 ここの文言の表現をもう少し適切というか、どうでしょうか、皆さん。 それでは一回を休憩して、この文言についてももう少し深めたいと思います。 休憩します。
	休憩 午後2時48分 再開 午後3時06分
山岸委員長	再開します。 今、皆さんからいろいろ御意見をいただきまして、今回の常任委員会の研究テーマ「移住、定住の促進について」ということで皆さんの御意見が出ましたけれども、このテーマの文言でよろしいですか。（「はい」の声あり） 賛成全員でございます。今回の常任委員会の研究テーマは「移住、定住の促進について」ということで決まりました。 では、そういうことで、私たちの常任委員会の今回の研究テーマは「移住、定住の促進について」ということで、次回に進めたいと思います。（「次回の日程だけは決めてたほうがいいんでないですか」の声あり） 休憩します。
	休憩 午後3時08分 再開 午後3時18分
山岸委員長	再開します。

	ただいま、協議していただきましたので、次回の常任委員会の日程は4月4日月曜日、9時半開始でございます。 では、本日の常任委員会を終了したいと思います。副委員長お願いします。
佐野副委員長	本日は分科会の開催中にも関わらずですね、常任委員会、大変ご苦勞様でした。4年度の研究テーマも移住、定住の促進ということで決まっております。次回は4月4日でございますので、皆さんよろしく願いいたします。 大変ご苦勞様でした。
	閉会

会議の経過を記載して相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和4年3月16日

総務、産業、建設常任委員会

委員長